

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 65 号 (令和 4 年 3 月発行)

令和 3 年 1 2 月に第 4 回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

平畑武議員



主な質問項目
・ 四日市港の活性化について
・ 客船の誘致拡大について
・ 港への道路ネットワークについて

○四日市市では、現在 2027 年を目標に、近鉄四日市駅周辺から J R 四日市駅までの中央通りを中心としたエリアを対象に、中心市街地再開発プロジェクトが計画されているが、その先の J R 四日市駅から四日市港までの約 2 キロ弱は、J R 関西本線や国道 23 号で分断されている。この港までの歩行者のアクセスという面については、どのように考えているのか。

● J R 四日市駅に四日市港へのエントランス機能を併せ持った都市機能の導入や、駅から貨物ヤード、国道 23 号を越える自由通路の整備など、中心市街地から四日市港への人の流れの創出につながるまちづくりを進めていくこととしている。

○「四日市みなとまちづくりプラン(基本構想)」のプロジェクトの 1 つで、歩行者、自転車、が、みなとまちを楽しく安全に回遊するルートを整備するとしている。四日市旧港まちあるき M A P を基に少し歩いてみたが、歩道の整備等は、ある程度進んでいる。しかし、千歳公園駐車場のところから先は、歩道が整備されているというには程遠い感じで、にぎわいを生み出すような感覚は持てなかった。どのように考えているのか。

●自由通路が設置されることや、例えばカラー舗装や動線の追加など、現在の歩行者動線をハード・ソフトの両面から見直すことも含めて、四日市地区をより安全に楽しく周遊できるよう検討していく。

伊藤嗣也議員



主な質問項目
・ 四日市港が直面する危機に対して、何を優先して取り組むのか
・ 塩浜・石原地区の海岸保全施設について
・ 緊急自動車の導入について
・ 港湾における感染症対策について

○四日市港は、今まさに存続の危機に直面していると感じている。新型コロナウイルス感染症に加え、南海トラフ巨大地震がこの 30 年に 80% の確率で発生すると言われ、カーボンニュートラルは化石燃料を多く取り扱う四日市港にとって、まさに死活問題となる。港の生き残りをかけ、管理組合がこれから特に注力して進めていくことは何か。

● 1 つ目は今整備を進めている 81 号岸壁である。コンテナの取扱量を増やすためにも、それによって四日市港、四日市市、三重県が発展をするためにも重要である。2 つ目は、カーボンニュートラルへの取組である。それに向けて、まず化石燃料を原料としている四日市コンビナートをどうするのか。四日市市と三重県が共同で事業者の方々とも話をしながら、在り方を考えていきたい。また、四日市港は石炭の取扱量も多い。将来的にはなくなる可能性もあるが、オーストラリアの褐炭は水素の原料にもなり、発生した C O 2 を海中や地中に閉じ込めることで C O 2 の排出量を減らす方法もあることから、議論する必要があると思っている。

3 つ目は、安全・安心の確保である。塩浜・石原地区の第 1 コンビナートをはじめ、石油化学コンビナートが立地しているので、南海トラフ地震時や、気候変動によって激甚化している大規模災害の可能性に対してハード面、ソフト面で引き続き対応をしていく。